

2014年6月27日

学期末テストが迫っています。各自計画的な準備を怠らないようにしてください。

先日の朝礼でもお話しましたが、辞書には、すぐれた人物を“秀”といい、その中でも特にすぐれた人物を“優秀”であると説明してあります。“秀”よりもさらに優れた人物を“優秀”だと言うわけですが、その“優秀”とは、“優しく秀でる”人物ということであります。自分のことだけで手一杯の人物ではなく、他人のことや周囲の状況をしっかり観ることができる、余裕のある人物、他人のことを憂いて考えることができる人物こそ優秀な人物だという意味なのです。

私の母親が、私に次のように話してくれたことがあります。

親孝行な人は将来社会の成功者として活躍する、いや成功者は必ず親孝行者であると思っていたけれども、最近はやや考えが変化してきた。社会で成功する人は、自分のことだけを考えているのではなく、自分以外の人々、たとえばお父さんやお母さんのことをしっかり心配できる、心に余裕のある人物が、結果的に将来社会において活躍していると気づいたよと。

激しく忙しく飛び回っている人物であっても、自分以外の様々なことを考えて、行動できる心の余裕に満ちた人物こそが“優しく秀でた”人物であります。そういう人物になってくれることを望みます。そのような人物は必ず自分自身も幸せになれるものだと確信しています。

インドの高僧が、「すべての不幸は、自分のことを考えることによって生じる」、「すべての幸福は、相手のことを考えることによって生じる」と言われましたが、この言葉はまさしく真理だと思います。

お釈迦様は、「バラモン＝尊い人物は、生まれによって尊い人になるのではない。その人が行った行為によって尊い人になるのである」と説いておられます。行いが自分本位である人物は、どれだけ立派な言葉を言っても駄目である。君たちは、様々な場面で良い行いを心掛けて欲しい。例えば、車中でお困りの人やお年寄りの方をみかけたとき、優しい声をかけて何かの役にたてるように努力したならば、その行為によって君の人格は高まっていくのだと思います。

本校は「福の神のコース」を歩んでゆく学校です。自分のことだけで手一杯になるのではなく、一心不乱に努力している時にも他の人のことが考えられる“心の余裕”を持っていてもらいたい。そして、他人に対して優しい行為を心掛けることで「福の神のコース」を歩んで行ってほしい。21世紀のリーダーとなるために、各自が自分を育てる努力をしっかり怠らないことを切に望みます。（学校長）